

ぱれっと

2012
11月
No.159



P 2~3 **特集 | 被災地の芸術・文化の復興**

一般財団法人アーツエイド東北
NPO法人20世紀アーカイブ仙台

P 4 **サポセン事業報告 | サポセンサロン パート5**

「復興支援活動を行う若者団体の情報交換会」編

P 5 **サポセン特設図書コーナー | 「東日本大震災活動報告書&記録集」のご紹介**

P 6 **市民活動サポートセンターからのお知らせ**

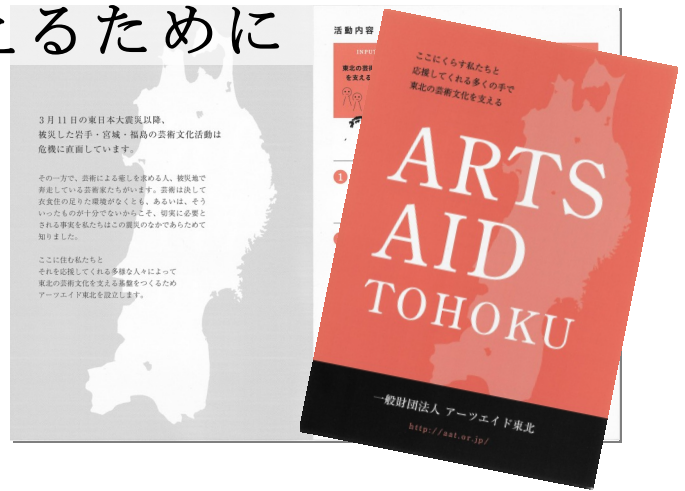
特集

被災地の芸術・文化の復興

東北の芸術文化を支えるために

一般財団法人アーツエイド東北

震災により多くの作品や記録・ギャラリーやホールなどが失われ、岩手・宮城・福島の芸術文化活動は危機に直面しました。一般財団法人アーツエイド東北（以下、AAT）は、震災後、東北の芸術文化を多様な人々の手で支えるために設立されました。今回は、事務局も担当されている、理事の内川奈津子さんにお話を伺いました。



芸術もライフラインのひとつ

阪神・淡路大震災の直後、被災地の文化の復興を目指して「アート・エイド・神戸」という団体が設立されました。「人は、電気・水・ガスなどのインフラさえ整えば生きていけるわけではない。人の心を癒し豊かにする芸術文化は必要不可欠」と、芸術文化を支える芸術家を後方支援するため1口10万円の支援金を配布したのです。「今回の被災地にもアート・エイド・神戸のような文化の復興支援を行う団体が必要ではないか」と考えた被災地と被災地外の芸術関係者が中心となり、2011年5月、AAT設立に向け動き始めました。6月22日に団体設立のキックオフイベントを開催し、発起人約100名を集め、11月1日に一般財団法人化しました。

想いを受け止めるプラットフォームとして

法人化後、まずは神戸を見本に、個人・団体や美術・音楽などの表現分野を問わず10万円の支援金を送る“被災した芸術家・団体のためのサポートプログラム”を実施してきました。「新規事業の立ち上げや、イベントの実施に対する文化関係の助成金はいくつかありますが、芸術家の生活の立て直しや、画材や道具を買い直して表現活動を再開するために使える助成金はありませんでした。そのため、他の助成金を受けにくい活動への助成をAATはプログラム化しました」と内川さん。初めて助成金の申請をする人でも書きやすい申請書にし、使途制限・収支報告義務もなしにしました。義援金や助成金は手元に来るまで時間がかかり、使途も限られるなど制約が多い中、AATの支援金はとても喜ばれているそうです。

寄付する側にとっても、支援したい対象に確実にしかも早く支援金が届くというのは嬉しいことです。内川さんは、「AATは、支援したい人、支援を受けたい人双方の想いを受け止めるプラットフォームでありたいと思っています」とおっしゃいます。

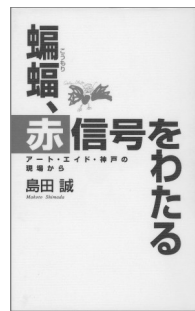
時間の経過とともに、緊急を要する案件は落ち着

いてきました。これからは作家本人だけでなく、作品を“作る場”や“発表の場”の支援も必要であると考え、今年度から“場やメディアへの特定助成”も始めることにしました。こちら“場”の運営という助成を受けにくい活動を対象としています。

芸術家たちの声

支援金の受領書の脇に「サンキューレター」というひとことメッセージを書ける欄を設けているそうです。それ以外にも「今度個展を開催することになりました」というご案内をいただいたり、「おかげさまで作品が完成しました」とお便りをくださる方が多く、「こういう反応をいただくと“やって良かったなあ”と嬉しくなりますね」と内川さん。AATの支援を受けた作家さんや団体さんからのメッセージは、AATのHPから見ることができます。

震災後、芸術による癒しや励ましがどれだけ私たちの心を支えてくれたか計り知れません。その芸術文化を支え育てていくために、既存の制度では対応できない部分をカバーしていくAATの取り組みは意義のあることだと感じました。（菅野祥子）



● Topic !

こうもり 『蝙蝠、赤信号をわたる』 島田誠：著

記事中に出てきた「アート・エイド・神戸」の取り組みが紹介されています。※サポセン図書コーナーにて貸出中！

○団体情報○

一般財団法人アーツエイド東北

○連絡先○

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3 LC111

E-mail info@aat.or.jp HP http://aat.or.jp/

復興の現場に求められる「文化な仕事」

NPO法人20世紀アーカイブ仙台

NPO法人20世紀アーカイブ仙台(以下、アーカイブ仙台)は市民が持つ暮らしの記録を後世に残していくため、昔の市民生活を写す写真・8ミリフィルムを収集・保存し、広く公開していく活動を行っています。

今回は、被災地の復興を文化事業で支え、応援する「文化な仕事創造事業」について、理事長の坂本英紀さんと、副理事長の佐藤正実さんにお話を伺いました。

(写真右から 坂本英紀さんと佐藤正実さん ▶)



文化活動の担い手づくり

この事業は、内閣府復興支援型地域社会雇用創出事業の1つで、文化活動を行う4団体がコンソーシアムを組んで実施。アーカイブ仙台がその事務局を担っています。「文化」をテーマにクリエイティブな発想で、被災地の復興と活性化を志す個人・団体の起業を支援する「起業支援事業」と、人材を育成することを目的とした「研修プログラム」を行っています。

アーカイブ仙台がこの事業に参画したきっかけは、被災地に映画を届ける「シネマエール東北 東北に映画を届けよう!プロジェクト」という活動でした。活動を続けるなか、震災によって被災した街から人々、特に若者が去っていくことに危機感を覚えたといいます。坂本さんは「自分たちが映画を届けるだけではなく、被災地に人々が戻ってくるような文化活動を、それぞれの地域で行っていくベースや団体を作ることができたら」と参画への思いを話します。

プログラムを通じた繋がり

今年8月から始まった「研修プログラム」は、現在各地で様々な文化創造事業を行うゲストを迎えての座学研修を終え、南相馬・石巻・宮古での実地研修が進行中です。地域に何を求められているのかを感じとるため、各地域では地道なフィールドワークやインタビューが行われ、継続性のある文化事業が企画されています。

また、研修を通して生まれた、横の繋がりを今後もうまく利用してほしいと、研修先の地域の人たちや、そこで文化活動をしている団体との連携、参加者同士の交流も大切にしています。坂本さんは、「アーカイブ仙台がこれまで活動を継続してきた経験を活かして、起業支援をしています、これから活動を始める若い人たちに教えてもらうこともたくさんあります」と文化活動を行う新たな仲間との出会いを嬉しそうに話します。起業資金を提供する「起業支援事業」には、10件の採用窓口に対して、全国から60団体の企画応募がありました。東北の復

興のために文化事業を起こそうとしている多くの仲間の存在を知ることができたと共に、資金など文化事業に対する支援の少なさを感じたそうです。

来年度は、内閣府の起業支援事業の継続はありませんが、今回の参加者が起業した後の運営についても一緒に学び合いながら、なんらかの形で支援に関わっていくそうです。

復興における文化の役割

坂本さんは、「その土地を愛するには文化が必要です。それがなければ、その地域から人々がどんどん離れ、戻ってくる理由もなくなってしまいます」と復興やまちづくりにおいて、文化という形のないものに大きな役割があると話します。人々が集まる文化拠点があること、子どもの頃から楽しみだった伝統のお祭りや恒例の行事があること、誰かに自慢したくなるような産品があることなど、日々の営みの中で育まれた1つひとつの文化が、その土地を愛する気持ちを育てます。私たちは、その1つひとつの文化を改めて見直し、後世へ伝えていかなければなりません。(松村翔子)

Topic! ボランティア募集

NPO法人20世紀アーカイブ仙台の活動を手伝ってくださる方、ご興味のある方はご連絡ください。

○団体情報○

NPO法人20世紀アーカイブ仙台

○連絡先○

〒983-0021 仙台市宮城野区田子1-11-2

TEL: 022-387-0656 FAX: 022-387-0651

E-mail: npo@20thcas.or.jp

HP: <http://www.20thcas.or.jp/>

○文化な仕事創造事業○

HP: <http://bunkanashigoto.jp/about/>

サポセン 事業報告

サポセンでは、参加者同士の情報交換や学びあいの場を通して復興の今を知り、社会にある資源（人材、物資、資金、ノウハウ、情報など）を被災地域で活動する方々につなげる企画、「サポセンサロン」を開催しています。



復興の今を知る場

「サポセンサロン」

「復興支援活動を行う若者の情報交換会」 編

今回のサポセンサロンは、仙台を拠点に、復興支援活動や、さまざまな分野で活躍する若者・学生団体の皆さんにお集まりいただき、情報交換会を行いました。参加団体は12団体。会場の交流サロンは若者たちの熱気に包まれました！

ワークショップ!!

事前アンケートから、みなさんの関心どころとして、3つのテーマを設定し、ワールドカフェ形式でアイデアを交換をしました！

●人材育成

学生団体ならではの、めまぐるしい世代交代。良い活動を継続させていくための人材育成について、それぞれの団体のノウハウを交換し合いました。

●震災復興

被災者の仕事づくり、地域ニーズを地道に集め信頼関係を築いた参考事例、変化するボランティアの役割とコーディネートのアイデア交換など、それぞれの経験から今後の活動について話し合いました。

●若者の社会参加

「学生のボランティア活動への参加」を切り口に、学生が市民活動に取り組む意義や、学問で学んだことをいかに社会や市民活動に活かしていくのか議論が交わされました。

参加団体(順不同) The young!!

- NPO法人POSSE仙台支部
- NPO法人ドットジェイピー
- 任意団体さくらゼミナール
- @plus
- NPO法人キッズドア
- NPO法人ボランティアインフォ
- リボンムーブメント
- 任意団体めっせーじ
- アイセック仙台委員会
- 復興応援隊(若林区)
- 六郷七郷コミネット
- offece99%
- サポセン若手スタッフ

復興やまちづくり、社会の課題解決に自分たちの力を生かそうと、地元の若者たちは日々奮闘しています。今後もこのような交流会を様々な連携のきっかけに、活用していただければと思います。(担当一同)

サポセン特設図書コーナー

東日本大震災活動報告書 & 記録集

サポセン図書コーナーには、NPO設立・環境・まちづくり・こどもの支援…などなど、さまざまな分野の市民活動に役立つ書籍があります。

また、現在サポセン1階総合窓口の隣では、東日本大震災の活動報告書や記録集をまとめてご覧いただける特設コーナーをご用意しております。今回は、スタッフより2冊の記録集をご紹介します。支援団体の活動を広く発信し、震災の風化を防ぐと共に、今後の活動の参考にご覧いただければと思います。

※一部貸出できない図書がございます。予めご了承ください。

◆ 3.11 キロクのキロク
市民が撮った3.11大震災 記憶の記録



東日本大震災で市民が撮影した写真を集めた記録集。NPO法人20世紀アーカイブ仙台の呼びかけにより約150名の市民から提供された18,000枚にもおよぶ写真を収録しています。写真は市区町ごとにまとめられ、写真からも地域による被害の違いが伝わってきます。

また、「3.11」を文字で残すと題された後半部分では、写真提供者の震災体験手記や、過去の津波を振り返る資料、東日本大震災の主なできごと、宮城県沿岸の津波浸水エリアマップなどを掲載。市民が何を思い、どう感じたのかということから、史実に基づく検証まで、多角的に震災を記録しています。

.....

発行 **NPO法人 20世紀アーカイブ仙台**
発行日 2012年3月1日
定価 本体2,000円 (+税)

〒983-0021 仙台市宮城野区田子1-11-2
TEL : 022-387-0656 FAX : 022-387-0651
E-mail : npo@20thcas.or.jp

◆ あの日、わたしは あかねグループ3.11の記録



※こちらの冊子は館外への貸出は行っておりません。館内でご覧ください。

仙台市若林区で配食サービス、介護サービス、サロン活動などを行っているNPO法人あかねグループのメンバーが、それぞれの被災体験をつづった記録集。3.11に介護の現場で、配食のための厨房で、自宅で、事務所でそれぞれが体験した生々しい震災について、それぞれの言葉で語られています。文集から浮かび上がってくるのは、震災の厳しい状況下でも、お互いを気にかけて、助け合いの気持ちを忘れない人々の姿です。

東日本大震災の夜も、「待っている利用者がいるから」と懐中電灯を手に配食をやりとげたNPO法人あかねグループ。その活動を支えたメンバーの強い想いが、ひしひしと伝わってきます。

.....

発行 **NPO法人 あかねグループ**
発行日 2012年5月27日
定価 非売品

〒984-0823 仙台市若林区遠見塚1-5-35
TEL : 022-285-0945



● サポセンでは、東日本大震災に関する市民活動団体・NPOの活動報告書や記録集を収集しております。情報をお持ちの方は、サポセンまでお知らせください。

市民活動サポートセンターからのお知らせ

11
/
21

会計初心者でもわかる

“NPO会計のいろは”

開催!

日時：11月21日(水) 午後2時～午後4時半
会場：市民活動サポートセンター6階
セミナーホール
参加費：1,000円
定員：20名(申込先着順)
内容：市民活動団体・NPOの日々のお金の管理につき、入門的なことを学びます。
・NPOの会計の役割
・お金の管理の仕方
・帳簿のつけ方 など
対象：市民活動団体・NPO法人の会計担当者等。
お申込：チラシ裏面の申込書にご記入の上、サポートセンター窓口又は、FAXにてお申込みください。お電話でも受け付けております。
TEL：022-212-3010 FAX：022-268-4042

主催：仙台市(仙台市民活動サポートセンター)

復興の今を知る場

サポセンサロン6

サポセンでは、参加者同士の情報交換や学びあいの場を通して復興の今を知り、社会にある資源(人材、物資、資金、ノウハウ、情報など)を被災地域で活動する方々につなげる月1回の企画、「サポセンサロン」を開催しています。

●11月17日(土)午後1時～午後3時

今月のテーマ：シニアサロン

「得意なこと・好きなことで地域貢献してみませんか?」

ゲスト：「みやぎシルバーネット」編集発行人
千葉 雅俊さん

サポ本を読もう!

入荷しました!新着図書

復興支援関連からハウツー本まで、市民活動・NPOに関連した図書や、活動に役立つ本がサポ本(市民活動サポートセンターの貸出図書)に加わりました。気になるリストはサポセンホームページでご覧いただけます。

サポ本は、1人1回2冊まで貸出(貸出期限は2週間)も行っております。ぜひご利用ください。

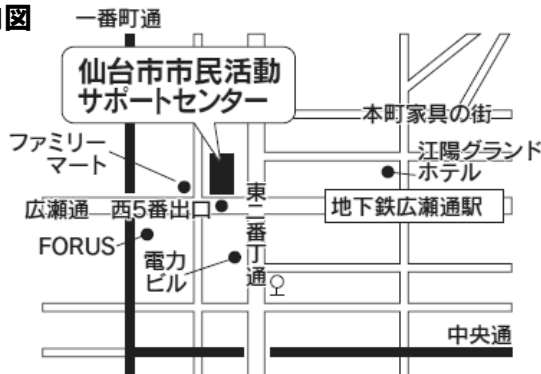
■ 仙台市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 仙台市シニア活動支援センターとは

これまで同様、シニア世代の地域・社会参加活動を応援していきますので、お気軽にお問合せください。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でお来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

【注】路上駐車・駐輪は、周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

【最寄のバス停】電力ビル前、商工会議所前

【地下鉄】広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

■ 開館時間

平日/午前9時～午後10時

日祝/午前9時～午後6時

■ 11月の休館日

第2水曜日 11/14

第4水曜日 11/28

編集後記：

ここ最近朝晩冷え込むようになり、街中の木々の葉も色づき始めました。秋は芸術系をはじめ色んなイベントが開催されるため、サポセンのチラシラックがいっぱいです。サポセン主催の講座等も予定されていますので、ぜひチェックしてみてくださいね。(スタッフ一同)

発行：仙台市民活動サポートセンター

仙台市シニア活動支援センター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

HP <http://www.sapo-sen.jp>

ブログ <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日：2012年11月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子 松村翔子

●ばれっとは、市内の公共施設、県内外のNPO支援センターなどに送付しています。

仙台市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間：2010年4月1日～2015年3月31日]